

## BAAANTENA

**Patent number:** JP51093849  
**Publication date:** 1976-08-17  
**Inventor:**  
**Applicant:**  
**Classification:**  
**- international:** H01F21/08; H01Q7/06  
**- european:**  
**Application number:** JP19750018724 19750217  
**Priority number(s):** JP19750018724 19750217

Abstract not available for JP51093849

---

Data supplied from the *esp@cenet* database - Worldwide



# 特 許 願

昭和50年2月17日

特許庁長官殿

1. 発明の名称 パーアンテナ

2. 発明者 特許出願人に同じ

3. 特許出願人 ヤブ ヤブ フォー  
兵庫県養父郡養父町船谷374  
ヤブ モトケン 伊 郎  
北 本 健 一 郎

4. 代 理 人 郵便番号 105  
東京都港区新橋1丁目15番4号  
堤第一ビル4階  
(6320) 弁理士 浜 香 三

5. 添付書類の目録

- |           |     |
|-----------|-----|
| (1) 明細書   | 1 通 |
| (2) 図面    | 1 通 |
| (3) 委任状   | 1 通 |
| (4) 願書副本  | 1 通 |
| (5) 審査請求書 | 1 通 |

特 許  
50.2.17  
出願日

方式  
審査

50 018724

明 細 書

1. 発明の名称

パーアンテナ

2. 特許請求の範囲

棒状磁性体面の軸方向に溝を形成させ、その溝に摺動磁性体を嵌合させて磁心を構成し、かつその磁心にはアンテナコイルを捲装したことを特徴とするパーアンテナ。

3. 発明の詳細な説明

この発明はパーアンテナコイルのインダクタンスの調整および保守を容易かつ速に行なうことができるパーアンテナに関するものである。

従来、パーアンテナのインダクタンス調整等はアンテナコイルの他にインダクタンス調整用のコイルをコイルボビンに捲装し、それを可動することによつてインダクタンスの調整を行つている。しかしこのようなインダクタンス調整コイルを製作するためには多大な労力および時間を費やしインダクタンス調整用コイルの製作を自動化するた

① 日本国特許庁

## 公開特許公報

①特開昭 51-93849

④公開日 昭51.(1976) 8.17

②特願昭 50-18724

②出願日 昭50.(1975) 2.17

審査請求 有 (全2頁)

庁内整理番号

7530 53  
7216 57

⑤日本分類

98(3)D2  
59 F12

⑤ Int.Cl<sup>2</sup>

H01G 7/06  
H01F 21/08

めに多大のあい路となつておりかつ資材を浪費する欠点があつた。

そこでこの発明は上記の欠点を解消するために棒状磁性体面の軸方向に溝を形成させ、その溝に摺動磁性体を嵌合させ磁心を構成し、かつその磁心にはアンテナコイルを捲装し、棒状磁性体の溝に沿つて摺動磁性体を摺動することによつてアンテナコイルのインダクタンスの調整を簡単容易にできるようなパーアンテナを提供することを目的となされたものである。

いま、この発明にかかるパーアンテナの実施例を図面に基いて説明すると、(1)は溝(2)を形成させた棒状磁性体(フェライトコア)で、その溝(2)に摺動磁性体(フェライトコア)(3)を嵌合させて磁心(4)を構成し、かつその磁心(4)にはアンテナコイル(5)を捲装したパーアンテナである。しかして、溝(2)を設けた棒状磁性体(1)に嵌合した摺動磁性体(3)を摺動させることにより磁心(4)の形状が変化および構造が変化して、磁心(4)の透磁率の変化による磁束密度の変化によつてアンテナコイル(5)のイ

インダクタンスが調整できるようにしたものである。  
ここで棒状磁性体(1)は第4図のように棒状磁性体(1)の面の一部だけに溝(2)を形成してもよい。かつ棒状磁性体(1)の形状は円柱または角柱でもよいし、また溝(2)の形状も角状、U字状でもよいことは勿論である。また棒状磁性体(1)と摺動磁性体(3)の材質は上記の場合は同質の磁性体を用いているがインダクタンスの調整範囲を広げることを考慮して異質な磁性体でもよいことはいうまでもない。

以上のように摺動磁性体(3)を摺動することによってインダクタンス調整を行なうようにしたので、インダクタンス調整の調整範囲は拡大し、かつ従来使用されていた調整用コイルの巻装は不必要となるから、インダクタンス調整用コイルを製作するために費やした多大な労力および時間は解消することになり、パーアンテナ製作行程において自動化も容易になり、また資材の節減およびアンテナコイルのインダクタンスの調整は簡単容易に行なうことができるなど工業的効果きわめて大なるものである。

#### 4 図面の簡単な説明

第1図は棒状磁性体の斜視図、第2図は棒状磁性体の側面図、第3図は摺動磁性体の斜視図、第4図は溝を一部形成させた磁性体の斜視図、第5図は溝を一部形成させた磁性体の側面図、第6図は溝を一部形成させた磁性体に対応する摺動磁性体の斜視図、第7図はパーアンテナの仕様図、(1)は棒状磁性体(フェライトコア)、(2)は溝、(3)は摺動磁性体(フェライトコア)、(4)は磁心、(5)はアンテナコイル。

代理人 浜 香 三



- 3 -

- 4 -

